

オピニオン

それは本当に必要ですか？

西区支部 藤丸俊樹

現代の日本には情報が満ちあふれ、様々な組織や会議も増加の一途である。会員諸氏の所に毎日配達される印刷物はどんなに多いことか。医師会関連だけでも日本医師会、道医報、この札医通信、支部だより等々があり、他にも新聞、雑誌、ダイレクトメール、インターネット等あらゆる情報に満ち溢れている。この膨大な情報の中から本当に必要な物を探すだけで毎日大変なエネルギーを皆さんは費やしていないでしょうか。

医学部からは毎年大量の論文と学会発表が出てくる。しかしその多くは学問の進歩のためというよりは、ただ数を出すこと自体が目的化している様に思われる。10年経って生き残る論文、発表がどれ程あるだろうか。

小生がかつて上司より学会発表のためあるデータを整理検討させられたが、既存の多くの論文と変らない結論しか出なかったと報告したところ、それは良かった。それなら安心して発表しようと言われた。そんな新味の無いものは発表の価値がほとんど無いのではと言っても、そのまま出させられた。

学会、研究会、医学誌も増加しこそすれ、減少することはほとんど無い。それらの中から本当に必要なものを探すことは、大部分の無意味なものの中から選ばねばならず、余分な手間のかかることこの上ない。

医学教育も同様の問題が多い。東大工学部を卒業後、他大学の医学部に入り直した学生は、工学部に比べ勉強の必要量が10倍も多いと語っていたが、6年間思考力・判断力や人間性を磨くことなくただただ知識を詰め込む生活は、将来の医師養成に健全とは言えない。

各々講義をする教官は、己れの学問こそ重要と将来必要となったら調べれば良い（ほとんど

は一生必要ないが）細かな知識まで学生に要求するのである。医学書は年々厚くなる一方で10年、20年後の学生はパンクしてしまうのではないだろうか？

同じ様なことがレセプトにも言える。その内容は改定の度に複雑になり、本の厚さも増して行く。事務手続きも複雑化し、改定の度にレセコンのソフトを変え、医師、事務員は講習を受け、時間をかけて勉強し直し、残業は増加する。これらのことはコストであるという視点が少な過ぎるのではないか。

高知県の橋本知事が役人特有の言い回しを改善させているが、請求に関しても同様、解り易い文章にして欲しい。労災の請求書には療養補償給付たる療養の費用請求書という長ったらしい名が書いている。こんな言葉は仕事の時間が余っている人しか考えつかない。

日本の会社で組織が肥大化して、会議ばかりしている会社は業績が悪化しているという。生き残れる会社は決定機関の組織をスリムにして迅速な決定を図っているという。そして会議も本当に必要なものかどうかを厳しくチェックしている。

一方翻って考えるに、医師会の組織も肥大化し過ぎていないだろうか。一部の役員の方はほとんど毎日のように医師会活動のため時間を割いていると話されていたが、大変に御苦労なことで頭の下がる思いがする。しかし役人というものは放置すると決して減少せずに、増加するという法則を発表した学者がいたが、我々の組織も余りにも増大し、会議が多過ぎないだろうか。本当に必要なものかどうか再検討し、有効な活動のみに絞っていく方がより濃密な活動になると考える。（藤丸外科・整形外科医院）